

熊谷市立江南文化財センター テーマ展

わが街熊谷遺跡めぐり

瀬戸山古墳群第14号墳出土遺物展

～平塚新田地区にあった古墳時代後期の古墳跡～

会期：令和4年10月11日(火)～令和5年4月8日(金)

発掘現場から

文化力
POWER OF CULTURE

1 はじめに

平成30年度、市内平塚新田にあります瀬戸山古墳群^{せとやま}の範囲内で個人専用住宅建設に伴う発掘調査が行われました。この場所では、近接して第14号墳の所在が既に認識されており、また周辺では、これまでの発掘調査により多数の古墳の所在が確認されています。

発掘調査では、第14号墳のものと考えられる周溝^{しゅうこう}の一部が確認され、古墳のおおよその規模を推定する手がかりを得ることができました。また、この周溝からは多数の円筒埴輪^{えんとうはにわ}がまとまって出土しました。

この度は、発掘調査により出土した古墳時代後期の遺物（円筒埴輪）のうち、形が分かる良品について展示します。この展示を通じて、今から約1,450～1,400年前の平塚新田地区では、多くの古墳が造られ群れを成していた光景に思いを馳せ、時代を象徴する古墳そのものや古墳時代について理解を深めていただければ幸いです。

2 瀬戸山古墳群と今回の発掘調査成果について

瀬戸山古墳群は、市南部中央、荒川右岸の江南台地標高 44～46mの平塚新田地区から標高 32～42m の楊井地区にかけて東西に長い範囲に分布し、古墳時代後期・終末期〔飛鳥時代・奈良時代の初め〕（今から約1,450～1,300年前）に造られた古墳群です。

調査は、瀬戸山古墳群を構成する1基である第14号墳の範囲北西部において実施されました。検出された遺構は、円墳の周溝の一部及びこの周溝を壊して造られた性格不明・時期不明の^{たてあないこう}竪穴遺構1基（SX01）です。

この円墳は、出土した円筒埴輪から古墳時代後期のおおむね6世紀後半に属するものと考えられます。

出土遺物は、円筒埴輪が大半で、その他、時期は特定できませんが土師器^{はじき}の破片や^{りなぐていせき}緑泥石片岩^{へんがん}の破片が見られました。

なお、緑泥石片岩は、古墳の石室（遺骸^{いがい}を埋葬した施設）を構築していた材料の一部とも考えられます。



調査地点及び周辺遺跡分布図

3 展示資料を出土した遺構について

(1) 第14号墳周溝

調査区の南西部において、古墳の周溝の一部と考えられる北西部から南部にかけて弧を描いて至る溝跡が検出されました。この溝跡は、幅2.8～3.4m、深さ0.4～0.64mを測り、古墳墳丘側が急で、外側が緩やかな傾斜をもつものでした。また、墳丘土と考えられる堆積土が土層断面観察から認められました。

検出された周溝の一部から古墳の規模を推定してみますと、墳丘の直径がおおむね24m、周溝も含めた全体が直径おおむね30mの円墳であった可能性が考えられます。したがって、検出された周溝は、全体のおおよそ1/8程度であると考えられます。

遺物は、第2章のとおりですが、そのうちの円筒埴輪の出土位置は、周溝の北西部に集中していました。また、円筒埴輪は、全体の半分以上が遺存し良好な状態の個体が5点ありました。

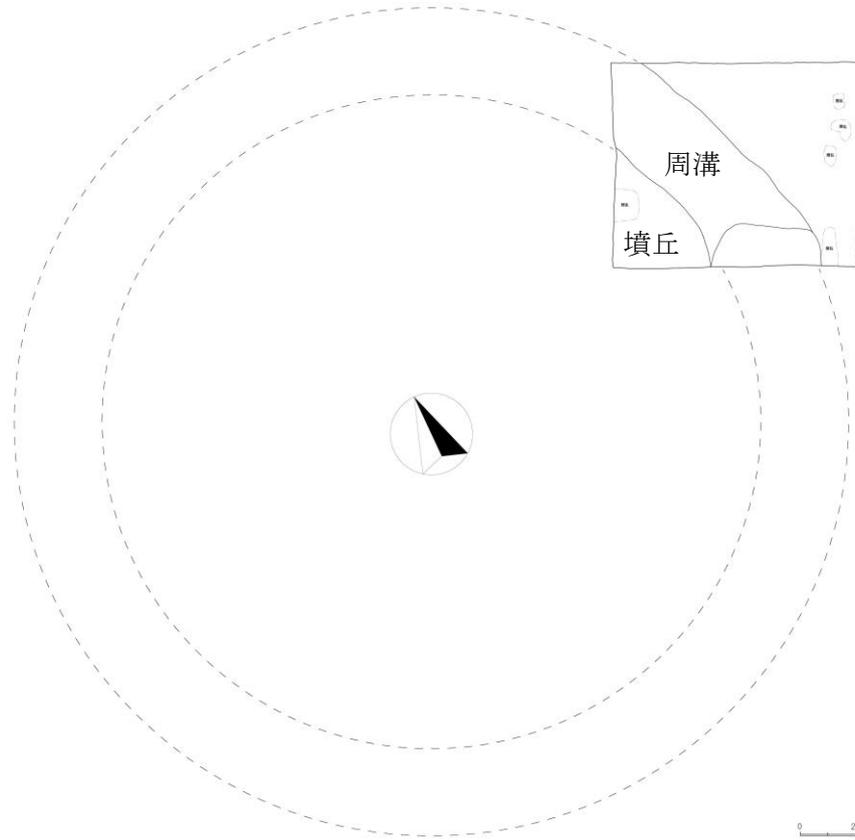
時期については、出土した円筒埴輪から6世紀後半と考えられます。この時期は、関東において古墳に埴輪を樹立する習慣があった時期のうちの終わりに近い時期です。

4 おわりに

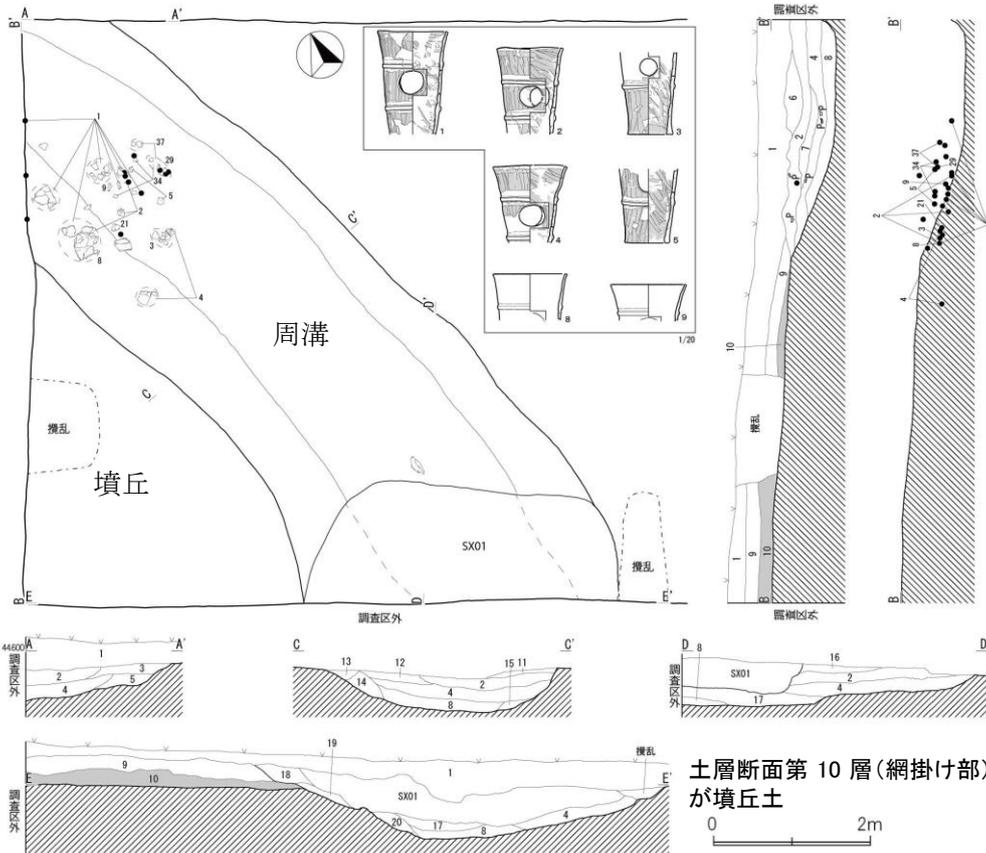
瀬戸山古墳群は、北に荒川右岸の低地を臨む江南台地縁辺部及び南の和田川を臨む南斜面上部の平坦部に立地し、現在36基の古墳が確認されています。また、古墳の分布状況は、東の楊井地区と西の平塚新田地区の2つのグループに分けられ、東のグループには前方後円墳1基を盟主墳にして21基、西のグループには15基が所属します。

この度の第14号墳は、西のグループに所属します。このグループの古墳が所在する平塚新田地区は、個人住宅、学校、公共施設等が所在し、これらの開発に伴う発掘調査で発見された古墳ばかりです。その中で、第14号墳は、墳丘が削平されていたもの、かつてからその存在が明らかでした。また、明治時代の地図には、本古墳に重なる位置に八幡祠の存在が示されており、全国的にも古墳の事例に多く見られる墳丘に神社や祠が鎮座していた古墳であった可能性があります。このことは、かつての人々が古の先人を敬い、その御魂が眠る墳墓を大切に護るため、信仰の対象として祀っていたことの証拠と思われる。ちなみに、古墳の名称には、稻荷山古墳やお稲荷山古墳、八幡山古墳のように、古墳に祀られた神社（記述順に稲荷神社、八幡神社）から名称が付いた古墳が多数ありますが、この度の第14号墳は、これに倣えば「八幡古墳」とでも呼べるでしょうか。

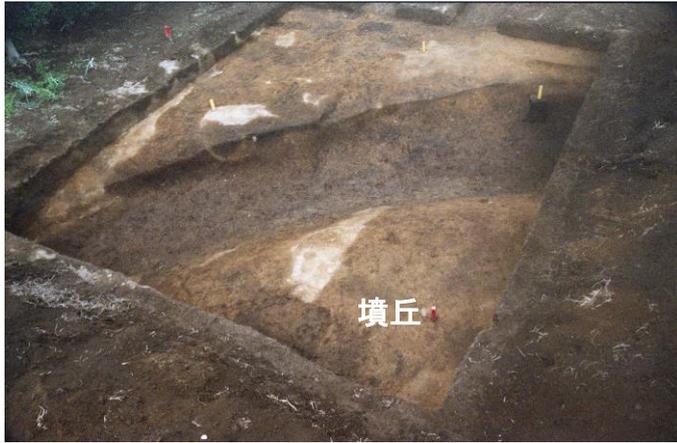
瀬戸山古墳群の平塚新田地区では、近年個人住宅が徐々に建設されつつありますので、偶然に発見される古墳がこれからも増えると予想されます。



調査区全測図・第14号墳範囲推定図



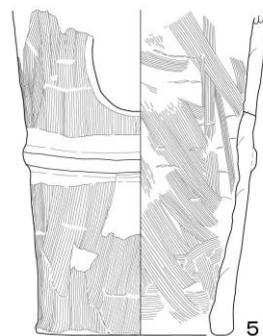
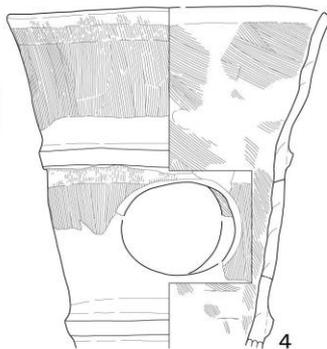
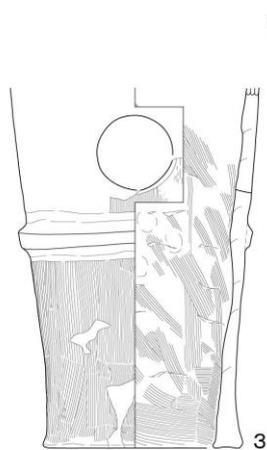
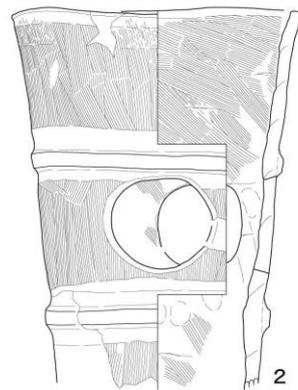
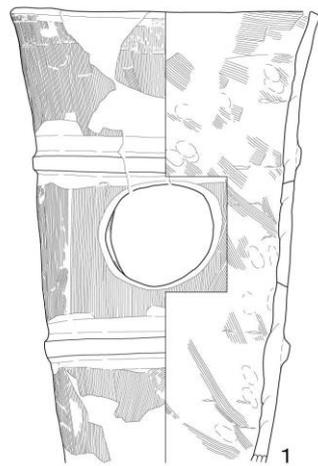
第14号墳周溝検出状況・出土円筒埴輪分布図



第14号墳周溝



第14号墳周溝円筒埴輪出土状況



0 10cm

第14号墳周溝出土円筒埴輪

令和4年(2022)10月11日発行

編集・発行：熊谷市立江南文化財センター(熊谷市教育委員会 社会教育課 文化財保護係)